

「旅の記録」 by 秋口守國

4.3 近畿・中部の旅 (その1) 秋口守國 4.3.20 記

○はじめに

3月6日から13日まで、和歌山(1泊)、堺、大阪(4泊)、神戸、十津川、新宮(1泊)、犬山(1泊)を回ってきました。今回の狙いは、近畿に勤務している後輩や、大阪・梅北整備に係わった地域の仲間との懇談、夫々のまちの様子を探り、そして、一昨年来のテーマである十津川・熊野川の流域を眺め、これまで訪問したことのない犬山城と明治村を歩きたかった。

通常、水曜日は委員会拘束日だったが、県議会関係で休会になり、平日を中心にして8日間が確保できました。時間が限られるとアポにおわれ、まちづくりの話に偏ってしまうのですが、今回はゆとりがあり、1人気ままに、ゆっくり観光も含めて歴史施設、まち、川などを眺めることが出来、施設整備にあたって考えたであろう計画や事業の背景・狙いなども、現地に即して理解することが出来ました。

前回の九州・沖縄、そして、往きはLCCで関西空港に向かいましたが、機内は卒業旅行と思いき若者が中心でほぼ満員、帰りの新幹線は日曜日夕方でしたが2/3から半分の乗車率で、JRの方はまだ定常には戻っていないと感じました。大阪のきたやみなみ、神戸市内などは若者が中心で、犬山の観光地ではこれに家族連れも加わり、かなりの賑わいとなっており、皆マスク着用・手洗いなどに留意しながらも、うらかな春の陽気の中、存分に開放感を楽しんでいました。

1. 仲間との意見交換

・近畿には4人の後輩がおり、**和歌山市、堺市、神戸市、近畿地方整備局**に勤務し、皆元気で業務に取り組んでいました。この中身は専門的でもあり、その2として、別掲載として割愛します。

・**大阪市内**の計画や事業について、大阪駅南口は阪神デパートも完成間近、またJPのビルは鉄骨が立ち上がりつつあり、顔が整ってきます。

梅北ですが、1期のビルは多くの人が入り出ており盛況、2期事業も順調に工事は進展していて、JRの線路部は埋め戻しがなされ、地下駅は来年完成します。また南西側ではホテルの鉄骨が組み立てられ、街路や、今は土が部分的に盛り上げられている中心部の公園緑地も形が見えてくるはずです。区画整理保留地の処分が一部出来、この中から鉄道高架事業に支援がなされたとのこと、ありがたいことです。街の姿が単なる地下の動きから徐々に立ち上がり、明らかになるにつれ、URの現地事務所には民間の会社から様々な問い合わせや情報が集まりつつあり、その中には周辺地区の空地や所有権、開発動向も含まれているようで、今後の開発の展開に向け、新たなシナリオづくりに役立つと思われます。これまで、構想と考えられていた、南に向けたなにわ筋線や北からのアクセスになる新大阪からの阪急の新線構想も、具体化の検討段階に入っていることを実感しました。阪急もホテル・駅ビルの改造や更新、駐車場、バスタ計画などが取りざたされております。いよいよ、ヨドバシカメラの後ろ側にある、中間ブロックのJR西本社ビルや密集ビル群のブロックをどうするか、地権者や関係者のスポット的な土地の買い上げなども含めて、個々に議論の動きがあれこれあるようです。

・**大阪を全体**でみると、森之宮地区では大学移転や近在の医療拠点の整備に伴い幾つか動きがあるようです、また、京橋地区についても民間関係者がそれぞれ情報収集や議論がなされており、いずれ顕在化し

「旅の記録」 by 秋口守國

てくる見込みで、URなどがこれらの動きに気を配ってくれています。臨海部では、万博やIR関連はそれぞれ動き出していますが、土壌改良費をはじめインフラ整備費の増嵩などで港湾局を中心に担当部門は対応に走り回っています、またMICEの規模が第1期で1/5程度の縮小される見込みとのことで、果たしてIR事業者がこの条件で進出してくるだろうか、そして国の承認はどうかとの心配の声も出ています。なお、淀川左岸線の工事増嵩について、去年は苦勞したが、今年は市議会の合意は得られる見込みのようです。そして、淡路連立は安全対策による事業費増嵩が大きくなりそうだ、との声が聞かれました。

2. ゆっくり1人旅

(1) **和歌山市**は、昨年、奈良から紀ノ川を下り、和歌山港を介して徳島にフェリー航路で渡ったため市内は通過に等しく、ここ数十年の間でも、JR紀勢線で何回か車窓越しに観ただけでした。小澤さんから概要を聞き、今回はゆっくり市内及び郊外を回り、紀伊55万石の城下町、城をはじめ周辺はきれいに整備されて気持ちよく歩け、さすがどっしり、ゆったりとした魅力的な都市であることを認識しました。

郊外についていえば、**加太**はめでたい電車などのニックネームがつく南海電車に乗り、のんびりとした気分で到達できます。ここは和歌山から大阪、奈良に連なる葛城修験道の西端、海からの出発地であり、また、淡嶋神社は女性の神様として古来から信仰を集めていて、境内には雛人形をはじめ、干支や七福神など様々の人形や置物類が境内に展示されとてもユニーク、思わず笑みがこぼれ見入っていました。**紀三井寺**は紀勢線の車窓からも、ちらっと眺められます、老爺の私にとっては北側にある重厚な構えに比べて、南側にある紅柄のお堂は軽い感じ、なんかその重みにそぐわないなどの印象をもちました。今年はコロナ禍で餅まきが出来ず、1000円を納め順番に配布すること、地元の方が多くいようでおしゃべりを楽しみながら並んでいました。**和歌山電鉄貴志川線**に乗りJR和歌山駅から紀の川市貴志駅まで、往復しました。正直、和歌山市のベットタウン的な田園地帯を通るだけで特段特色を感じられないローカル線、片道約30分です。お目あては終着駅の三毛猫たまちゃん「駅長ニタマ」に会うことで、アクリル板で仕切られたゲージのなかで、居心地よさそうに居眠り勤務をしていました。ここもまた、観光用に豪華にした車両や、梅干し、イチゴなどのラッピング電車など、乗降客増に向けた様々な工夫がされていて、子供たちのみならず若いギャルたちも大喜びしていました。

(2) **堺市の泉北NT**は関西で北の千里NTと並ぶ大阪を代表するNTで、ピーク時は16万余の人口を誇っていましたが、現在12万人足らずに減少しています。当初の計画で戸建てや高層住宅、分譲や賃貸などを上手に配置したのですが、ご多分に漏れず高齢化や人口減少によって、それぞれの地区毎によりその対応が変わってきます。戸建て地区は住民の共同意識も高いようで、自治会的な活動も活発な地区が多く域内での共同作業への呼びかけをする看板などを見受けました。高層住宅も棟周りはきれいに清掃されているのですが、50年を超える棟も多く老朽化が進み、空き家も目立ちます。府やURなどの建て替えが始まっていて、因みに不動産案内で、「昭和47年築、49m²、家賃月3.9万円」の掲示がありました。

戸建ての中には敷地200坪を超える地区もあり、多くは100坪程度でゆったりした家並みでしたが、世帯構成として、2世代家族からお2人世帯になりつつあり、さらにはお1人様へシフトする中、子供たちや若い世代が入居してくるかなど、今後の住み替えが順調に行くかどうか、全国共通の課題を抱えて

「旅の記録」by 秋口守國

います。一方で、間もなく近畿大学やその附属病院をはじめ幾つかの教育機関が、人の住む所に移転してくるというトレンドもあり、駅前についてもリニューアルを図る計画が示されています。いかに魅力を上げるか市、府、UR、南海などの関係者がスマートシティのコンセプトなどを生かし、新たな価値の創造を目指しており、今後、その成果に期待したいと思います。これまで地元で詳しい方と共にスポット的に見ていましたが、1時間半ほど、泉が丘駅を起点に住宅街・公園・緑地などを眺めながら歩きました。地形的にはかなりきつい所でしたが、上手にその特色を生かしながら、宅地やインフラの設計・整備をしたなど感じており、これからはタウンマネジメントの考え方が大切になります。

(3) **神戸市**は横浜と並ぶ港湾都市で、近代日本を牽引してきた都市です。不幸なるかな、25年前の阪神淡路の震災によって大きなダメージを受けました。幾つかの経済指標ではまだ、その影響などが色濃く残っているようですが、街中は、大方癒えてきたようです。今回はシティループという、中心市街地、ハーバーランドなどの臨海部と山手にある北の異人館街を回るバスに乗り、更に異人館周辺の坂道や建物をのんびり歩いて回りました。観光客は圧倒的に若者が多く、それに老夫婦もかなり交じり賑わいを見せていました。ただ、少しルートを外れると人通りも少なく、開港時の街並みや眺望を念頭に、その後の変化を想像するなど楽しんだのですが、人の集う建物や土産物の店などは、いささか商業色が強く出過ぎているのではないかと感じました。

(4) 大阪での友人たちとの意見交換を終えて、今回、訪問の目的の1つは、**十津川・熊野川**を眺めることにありました。一昨年来、全国の川筋の旅は多くが鉄道沿いでしたが、今回は日本1長いと言われる路線バスで、大和八木から新宮を目指すものです。7、8年前に堺市の友人とこれに近いルートをドライブし、熊野古道を歩き、熊野本宮や川べりの温泉に泊まったのですが、友人とのお喋りに夢中で、古道の6時間を超える歩きに疲れて、その時の印象はほとんど残っていません。

今回の旅で、奈良県大塔町から十津川村に抜ける**国道168号**で、道路線形改良の規模やすごさを見るにつけ、かつての日本の道路の貧弱さや厳しい地形に対する懸命な努力を思い起こしました。また、10年程前の十津川の集中豪雨による河川災害の爪痕、大きさに驚きました。特に山肌での大規模な治山事業は、通常では環境保護などの観点からストップがかかりそうですが、山崩れに伴って河川に生じた土砂ダムの脅威、激流のすざましき、これらに伴う道路の寸断などによる恐怖や避難から、地元は安全を最優先にしてほしいと合意したのでしょうか。

バスはトイレ休憩の意味もあり、1時間半ごとに3か所ほどで休憩時間を取ってくれ、特に、谷瀬のつり橋付近では20分余あったので、名産の高菜をご飯で包み込んだおにぎりである「めはり寿司」をほおぼりながら、かつては、こわごわ・へっぴり腰で渡った**谷瀬のつり橋**(L:297m, H:54m)に挑戦し、今回は下を見ないことにしてずんずん歩き、横揺れにはドキドキしましたが、難なく往復することが出来ました、多分、日頃のテニスやウォーキングの成果だったと思います。

新宮の手前、**熊野本宮大社**で途中下車して、緑濃い林に囲まれた荘厳な雰囲気にあふれた社殿などを1時間ほどお参りしました。かつては熊野川の中州にあったのですが大洪水により幾つかの社殿が流されてしまい、それを免れたものを、台地の上に移築したそうです。新宮へのバスは“特急”と名づけられていますが、各駅停車、国道から横道にそれた集落にも立ち寄るなど、なんで特急なのかと考えましたが、ここはすごい過疎地であり、ここをしっかりと、確実に、結んでくれる安心感も込めて、特急と名づけたのか

「旅の記録」 by 秋口守國

など思いました。

(5) **新宮**では、先ず、大人の休日を活用して割引切符購入と考えJR西の駅舎に行きましたが、みどりの窓口はありません。ただ、みどりの窓口に相当する機械が設置されていて、センターとリモートで、会話しながら発券してくれる仕組み、老翁にとり苦手な作業ですが、親切にガイドしてくれ、3割引きの切符を手に入れることが出来ました。

さて、宿に向かうべく地図を探したのですが、駅には簡単なものしか無く、さらに、私の方位の感覚は海が南（実は東）、鉄道も東西（実際は北西と東南）を走るという固定観念にはまっていて、さらに曇り空・夕方のせいもあってかなり鈍っており、宿の方角は真逆になっていました。更にスマホにある民泊的な宿の地図案内が間違っており、なり遠方の位置を指し示して信用できず、やむなく宿に電話のしたのですが、その道案内は要領を得ず（私の方向感覚の誤りのため）、かなり混乱しながらも、やむなく恐る恐る歩きだしました。途中でとぼとぼリュックを背負った老翁を、宿のオーナーが自転車で駆けつけ見つけてくれて、ようやく宿にたどり着きました。

荷物を置き、すぐに熊野速玉大社を目指したのですが、ここでもまたドジで、方向が90度ずれていて、**新宮城址**にたどり着いてしまいました。ただ、おかげで熊野川岸にそそり立つ城跡を日暮れ際、のんびり建設の時代を偲びながら散策が出来、帰りに、折角だから海鮮料理と探したのですがあいにく店は見つからず、でもおいしい中華料理にありつきました。民泊は普通の2階家の3部屋を活用し、全体で10人ほど泊まれるもので、台所などは共用となっていて、食器やガス台、冷蔵庫などが使えて、料金も高くなく、小家族の旅にはうってつけです。

翌朝、早起きして、**熊野速玉大社**、**神倉神社**を参拝しました。山裾を移動している間に神倉山に登る登山案内板があって、「牛の背迄 0.28 km」と書いてあり、街を眺めるには絶好と安易に考え登り始めました。10m と行かないうちにすぐに道らしきものが消えて見当たりません、岩が出、さらにブッシュ漕ぎながら登り始めましたが、手掛かり足掛かりをしっかりとつかめず、登るのを断念しました。そうか、修験道の山伏たちは、このような道を早駆けしていくのだ、確かに、すごい修練だなと実感しました。その後、神倉神社にあるコトビキ岩まで麓から500段の石段を登ると書いてあります。40年前、国土庁勤務の時にビルの25階まで約500段、朝、運動がてらで登るのに7、8分かかっていましたが、今回は石段自体がごつごつして、また、直登行がきつい場合は斜行をしながら登り、結果15分かかりました、まあ、年齢を考え、これで良しとしなければなりませんね。

(6) **犬山市**訪問、第2の目的地ですが、私の50年以上前、初勤務地は愛知県庁の2年間で、仕事は東海道線沿線や、知多、渥美半島における都市計画道路の計画決定や事業の推進が仕事であり、更には当時歴史に関する探求心などはまるでなく、したがって、友人の勤務していた岐阜市で木曾川や長良川を見ましたが、犬山城や明治村などには興味が湧かず、結果、訪問しないままになっていました。

犬山城や明治村は多くの方が訪問していらっしゃいますから、あえてその内容などは触れませんが、**犬山城**は国宝指定の名城の1つで、他は松本、彦根、松江、姫路だそうで、犬山で私は全て制覇になります。城の前にある本町通はすごい賑わいで、若者や家族連れであふれ、「あれ、今コロナ禍なのに」とびっくりするくらいの大賑わいでした。宿は犬山館という老朽旅館でしたが、5階の部屋と私以外誰もいない6階の大風呂から、真正面にある城の眺めは抜群、正にお殿様になったような気分を十分に味わいました。

「旅の記録」by 秋口守國

木曾川の河畔を歩いていて、名古屋市場水道局管理地などの看板が目につきます、木曾川の新たな堰の建設により、上水道や農業用水が安定確保されています。

翌朝、おいしい湯豆腐付きの朝食を食べた後、**明治村**に向かいました。一昨年、北海道開拓村を4、5時間かけてゆっくり回り、北海道の開拓史や厳しい自然に立ち向かう先人たちに思いを寄せることが出来ました。今回、ハンカチ、ティッシュ片手に6時間ほどかけて、全ての建物や建造物を見て歩きましたが、もっと時間が欲しいなと感じた次第、やはり全国から選りすぐりの建物には単に物理的に存在するというのみならず、風土や建てられた意義、偉人の居宅などの場合は仕事に取り組む姿が思い浮かび、多くの建物では、そこで働き、暮らした人々など、時代の息遣いを感じられました。若いときに観たとしても、そのような感慨は沸きようもありません、これまでの自らの年輪となる経験や、夫々の地を訪問した時の思い出なども重なりあって、とても深みのある、豊かな見学でした。折角でしたので犬山から可児市そして明智を電車で行って見ましたが、特段変わり映えのしない名古屋の郊外都市ないしは田舎町であり、ただ、明智光秀が岐阜城の斎藤道山に呼ばれた時は、1日仕事で駆け付けたのだろう、昔の人は健脚でなければ務まらなかったなど、ぼんやり考えながら車窓から田園風景を眺めていました。

3、今回の失敗談や学んだこと、思うことなど

(1-1) 結果として致命的な失敗はありませんでしたが、あれこれ悩んだり、苦労はさせられました。先ずは、今回の予定を組み、アポを取り始めた後、**3回目のワクチン接種**の予約が出発前日の11時半とわかりつけ医から告げられました、もしこれを逃すと次の機会は4月とのことであり、申し込みました。たまたま、何人かの友人は、接種後高熱やだるさ、痛みで数日間自宅療養していたとのことを聞き、はて、特に、高熱が起きると翌日予定の飛行機には乗せてもらえません。その場合は飛行機や宿代はあきらめ、1日静養して熱がある程度下がってれば新幹線を使って、和歌山に向かうことを考えながら、午後は珍しく自宅で大人しくしていました。幸い接種の所に僅かな痛みがある程度で、他は異常なく、予定通り旅を始められました。

(1-2) 次に泉北NT散策後、帰りの電車に乗って**スマホ**の無いことに気づきました。慌てて、泉が丘駅に戻り、駅務室に聞いたが届け出は無し、やむなく、これまで歩いたルートを逆にたどりつつ、夕闇の迫る中1時間ほど、目を皿のようにして歩きましたが、見当たりません。途中みどり電話からスマホ宛架電しましたが、電源が切られ、位置情報が入っていないとのこと、しょんぼりしながら駅に戻り、駅務室で聞いて駅前交番に出頭、遺失物届けを出しました。ここで、スマホの機種や特色などを聞かれ、例えば、画面の色やどんな景色が入っているのか、ケースに何か目印になるものが差し込んでないかなど、普段考えてもいなかった質問なのでどぎまぎしながら、応答しました。一応遺失物の届け用紙を書き上げてもらい、交番のコンピューターに登録したところ、隣接の交番に類似のものが届けられており、15分ほど待てばこちらに持参してくれるとのこと、大丈夫だとほっとしました。その後、さて、本人確認の意味もあり、写真付きの免許証のようなものは保持しているかとのことで、ありません。やむなく名詞で了解いただいた後、その名詞と同じものがスマホに挟まっていて、お互いに笑顔でスマホを返却してもらいました。日本では遺失物の届け出で、現金ですら半分戻ってくるし、スマホなどはかなり高い確率で見つかり戻ります、ありがたいことです。交番で警察官がかなり慎重に書類作成していたのは、多分、個人

「旅の記録」by 秋口守國

情報の保護の観点が強く、確認作業をしっかりと行いたかったからだと思います。

(1-3) 今回の旅は吉野杉や木曽杉の産地で、かつ、花粉が特にひどい時期でありました。これまで、私は花粉の始まる時期を前にして、点鼻薬を使い**花粉症**が出るのを押さえることにずっと成功してきました。今年もその対策をしっかりと打っていたのですが、奈良から吉野の脇を通る十津川のバス旅あたりから、鼻がむずむずしてきました。そして明治村ではいささか悲惨な気分、ポケットティッシュペーパーは3袋でも足らず、ハンケチはぐしょぐしょとなりました。コロナの時期なので、くしゃみをすると周辺の注目、厳しい視線を浴びてしまいます。マスクを2枚にしてひそやかに歩き、見学していました。

(1-4) 帰宅後のことですが、金柑を柑橘類の名所、南紀の新宮で1kgほど購入し、紅茶などに入れて飲むつもりでいました。無事帰宅したよ！のあいさつを家族などに送った後、何気なく金柑の食べ方をPCで見ている、「1時間で出来る**金柑ジャム**」に目が留まりました。これまで、ジャムなど作ったことなどありませんが、料理手順などは簡単そうであり、よし挑戦しようと決め準備に取り掛かりました。結論から言えば、いぎ、蜂蜜を混ぜ煮炊きに入ってからはおおよそ1時間強で出来ました。しかし、金柑を洗い、水気を取り、へたを除き、半分に切って種を取り出し、その後細かく刻む下ごしらえ作業は、不器用な私にとり3時間半もかかりました。なるほど良質のジャムの値段が高いのは当たり前だと再認識、勉強になりました。甘酸っぱい金柑ジャムを、苦勞を思い出しながら今も大切に食べています。

(2-1) 新宮から名古屋まで、JR東海特急の南紀4号の運転席のすぐ後ろの座席に陣取りました。これに先立ち乗車にあたって出発は9:15と勘違いし、ぶらぶら駅まで歩き、ぎりぎりの到着、改札窓口で階段を渡り隣のホームまで急ぎ走れとのこと、私の乗車と同時に扉は閉まる、実は9:13発でした。

さて、南紀の景色を楽しむつもりだったのですが、**運転席**はまだ新人が乗務、隣に教官役のベテランが座りあれこれ注意事項を伝え、同じ行動をします。運転台の全容は運転手の陰になった部分は見えませんが、ATS稼働中のランプがつくなど、大略わかります。各種の計器に加えて、左上部にタブレットが置かれ、線路外の施設(駅、踏切、トンネル、橋など)が表示され、進行に応じて徐々に移動していきますし、名古屋に近くなってからは速度規制なども表示されていました。特に、信号をはじめ幾つかの標識に指先呼称をしますが、かなり遠くからでも見えたとたん先ず指差呼称、更にある程度近づいてからもまた指差呼称、そして、そのやり方は腕を曲げた状態から真っ直ぐ延ばし、はっきり口に出して確認していく様子には、気合を感じます。そして、分より細かい記載もある時刻表を常に指し示し、警報音に対応し、遅れなども時計と照らし点検しながら運転しています。ここで、踏切については遮断されているのが運転席から視認されるようになっていましたが、特段指差呼称をしていません、運行にあたりもはやこれは機械を信じるより他ないと現れでしょうか。おかげで、自分も運転手のような気分になり、3時間の乗車でかなり疲れを感じました、運転は緊張を伴い本当に大変な業務だとしっかり認識しました。

(2-2) 大阪には何度も行きながら**御堂筋**の名前の由来を知りませんでした。友人である大阪市OBの岩本さんから、御堂は浄土真宗のもので、北御堂、南御堂と2つ並んでおり、それをもとにして道路は御堂筋と名付けられたとのこと、京都の本願寺に連なるものであちらは東西だが、こちらは南北になっています。北院は急な階段を上り、大きなお堂があり、中はキリスト教会の様に設えてあって、自由に入り拜むことが出来、我が家は浄土真宗で、しばし南無阿弥陀仏を唱えていました。南院は門構えのような形状の大きなホテルが前面に立ち、それを透かし見るようにして、後ろにお堂があります。残念ながら、

「旅の記録」 by 秋口守國

改修工事中で大きなお堂の様子は分かりませんでした。すぐ南側の石組みの庭園に芭蕉の辞世の句が刻まれてありました、「旅に病でゆめは枯野をかけまはる」。文学的な素養の無い私ですが、この句は何度もきいています、思わず、じっと佇み、旅好きな我をも省みていました。

(3) これまで、沖縄でいただいた**地域振興アドバイザー**の名前を使って各地を訪問し、後輩や地方の仲間と懇談・意見交換して、私なりにはこれでも、ささやかながら社会貢献をしているつもりでした。でも、喜寿(77歳)の老翁が、今回は20から40年も若い人の仕事場を訪問し、彼らの夢や思い、時にはボヤキなどを聞きながら、彼らの立場に沿って一緒に考えていましたが、はて、どれだけ役に立っているのだろうか。どうも、私の時代遅れ、古臭い経験や知識・知恵は、彼らにはもう役には立たないのかな。これからは、訪問するにしても、身をわきまえ、総合(体技心)・**健康・相談員**(診断員)としてニコニコ笑いながら、彼らに「頑張れ」と励ましていくことが妥当なのかな、その程度はお役にはたつのかなと考えています。コロナ禍で規制や自粛が続く中、私のような自由人が、後輩や仲間の間で、良いネットワークが張られ、さらにそれを紡いでいけるように、ささやかながら貢献していくことにしましょう。以上